

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3393500016 | | |
| 法人名 | 有限会社 桜花 | | |
| 事業所名 | グループホーム さくらそう A棟 | | |
| 所在地 | 岡山県苫田郡鏡野町小座424-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年10月26日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・個々のニーズに合わせたケアをする。 ・利用者、家族共に安心した生活を維持出来る事。 ・地域とのかかわり合いをふかめる。 |
|--|

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3393500016-00&PrefCd=33&VersionCd |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ライフサポート |
| 所在地 | 岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館 |
| 訪問調査日 | 平成27年11月4日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>このホームは平成18年設立以来10年間毎年訪問させてもらっているが、一言で言うとも一歩リビングルームに入っ て感じることは「良いホームだなあ。利用者一人ひとりが落ち着いて満足感を味わっているなあ」という一言で総評 出来ることである。スマートさや洒落たという面がある訳ではないが、一歩中に入ると「人間の暖かさ、生活の楽し さ」がいつも漂っていて、利用者の一人ひとりの心身の状態を見ると重度の人が多く中でも決して暗い感じがしな いのである。多くのホームを訪問させてもらっているが、一番安心して楽しい思いの出来るホームと言える。それは 何故だろうと考えてみると、職員が外から見る限りチームワークの良さがあげられ、職員が利用者の中にいつも 入っておりながら、自分の仕事をしていない。利用者と共に生活をしている。その時に見て感じたことをしっかり頭 の中に収めておき、本来の仕事は利用者の目に付かない所で、職員同士でしっかり仕事をしている筈である。私共が 考えているホームのマネージメントの在り方を理想的に歩んでいる素晴らしいホームだと見させてもらっている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・基本理念に基づき、利用者の尊厳、ニーズへの対応、地域との交流を実践している。 | 介護理念は「利用者の尊重、利用者のニーズに対応する、地域交流を大切にする」の3項目。職員に分かり易い内容で、その理念に根差したケアプランと利用者への支援が実現していた。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ・近隣の地域行事、町のイベント、図書館や観光施設の利用等で地域交流している。 | 地域とのふれあいサロンに参加、小学生・ボランティアとの交流、地域行事へ参加、ホーム行事への招待等、多くの場所、人と触れ合い、バランスの良い交流が定着している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | ・地域のふるさと祭りでホームの紹介、作品展示をしている。 ・地域の方の訪問の際、認知症の人への理解が深まるよう対話している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・2カ月毎に開催し、ホーム内の様子を報告し、参加者からの意見をもらっている。会議の内容はスタッフに知らせ改善点等を検討している。 | 町役場、地域包括支援センター、地区長、家族等のメンバーで、ホームの現状報告や情報交換を行っている。家族側から具体的要望事項等も出され、ホームの運営に活かしている。 (目標達成計画 継続実施) | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ・市町村への報告、連絡事項は、欠かさず行っている。 ・担当者への相談等もその都度している。 | 町の福祉情報テレビの放映や指導、助言等、福祉施策が充実しているため、ホーム運営に活かしている。過去に、ホームのイベントに町長が自ら出席してくれて福祉現場を理解してもらった事がある。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ・なにが身体拘束になるのか、しないためにはどのようにケアしていくかスタッフでよく話し合っている。 | 身体拘束、虐待についてマニュアルを通じて職員に意識付けをしている。最近入所された体格の良い男性利用者の不穏行動時には薬を排除し、徹底した寄り添いを行っているという職員の話聞いた。体位変換が必要な利用者をリビングに誘い他の利用者で交流させてあげている手厚いケアを見る事が出来た。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | ・虐待にはどのようなものがあるのか、何気ない言葉や態度が虐待になっていないか、スタッフどうしが注意している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ・地域包括センターが年間を通して計画している勉強会(2カ月に1回)に参加し、時に事例を通しての意見交換等している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | ・出来るだけ入所前に契約事項を説明し、家族とも話し合い、不安や疑問点を解決した上で契約をしていただく。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ・ケア会議だけでなく、利用者、家族からの要望や意見には随時対応している。 | 年1回、利用者の家族を一人ひとり招いてケア会議を開いている。「さくらそう通信」で利用者の日常やお知らせ等を満載して家族に届けているので、必要あれば忌憚のない意見や要望はよく届き、都度対応している。利用者の意向は「わたしの姿と気持ちシート」で把握しケアに反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ・毎月に職員会議で職員の意見や提案を聞いている。その後は代表者、管理者で話し合っている。 | 職員会議では1件以上の意見を出してもらっている。新人職員が、「先輩職員がいいので楽しく仕事が出来るのが嬉しい」と笑顔で話してくれた。ホームのオーナーが毎日両棟を回り、利用者、職員に接しているため意見が届きやすい。職員同士のチームワークの良さがこのホーム全体の誇りである | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ・毎月に職員会議や、直接代表者に意見を言い、職場環境の改善等を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | ・各研修等には、積極的に参加できるような機会を作っている。 ・参加者からの伝達、講習も職員会議を利用して行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ・地域行事、研修会で他の事業所職員とも交流できている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ・入所前に面接をし、利用者本人の持つ不安や要望を聴き、安心して生活が送れるサービス内容をアセスメントしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ・申込時、入所前の面接時、家族の思いを聞き、サービス内容をアセスメントしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ・利用者本人の思いを十分に聴き、ニーズを知りプランの作成に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | ・その人らしさに関連した情報を知り、可能な限り「暮らし」を再現するよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ・TELや写真で日頃の生活の様子を家族に知ってもらい、協力を得ている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ・本人、家族からこれまでの地域との繋がりを知り、面会、外出を出来るだけ制限することの無いようにしている。 | 本人の馴染みの店で買い物をし、行きつけの理髪店で散髪をしてもらう等を大切にしている。地域の行事やふれあいサロンに参加し、「ホームの人」として馴染みの関係が築けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ・利用者一人ひとりの活動を把握し、孤立したり、トラブルになることの無いようスタッフが関係作りに気を配っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ・サービス終了後も築いてきた信頼関係を大切にしている。「本当にここで世話になって良かった」と心から思っておさる気持を大切にしている。家族の心境を思い交流が続いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ・一人ひとりの生きて来られた経歴を思い、希望を受け止め、職員と共有し心を大切にすることを努力している。困難な場合であっても、第一に本人を尊重し希望に添えるよう全員で努力している。 | 「個別支援計画書」「私の姿と気持ちシート」で具体的な本人の意向や希望を把握している。日々変わった様子や意向を書き留めるシートをリビングに置き、共通認識を徹底したケアが行われている。一人ぼっちで過ごす利用者は一人も見られず、生き生きとした表情で過ごしていた。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ・生活歴、地域環境、家族関係をしっかり把握して理解や信頼関係の中よりよいサービスに努めている。家族の希望、本人の気持ちに添って実践できているか把握している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ・一人ひとりのライフスタイルを大切に、残っている能力や機能を引き出してメリハリのある明るい日常になるよう努めている。 ・一人ひとりの状態把握し心身の健康に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ・より良い介護計画に家族、本人の気持ちに寄り添える内容にスタッフの意見、工夫を反映して実践できるように努めている。モニタリングが現状に即して行えるよう努めている。 | 「利用者が困っていることは何か・どうなって欲しいか・何をどうするか」「そしてどうなったか」という評価を基にモニタリングを行っている。職員一人ひとりが利用者をよく見守り、見極める力量の大きさを見ることができた。マネージメントの仕組みやチームワークの良さが目立つ。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ・今日という日を大切に過ごしてもらうための工夫や内容を共有、記録してサービスの見直しに生かし実践出来るよう努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ・社会的にも困難なニーズや家族の困難な要望にも積極的に柔軟に話し合い実行できるよう努力している。 ・職員のチームワークの努力で対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ・地域のお祭りや行事など交流の場に来るだけ参加し、地域との繋がりを感ぜられるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ・本人、家族の思いを大切に、かかりつけ医の往診関係を築き、変化のある時は連絡し指示を受けている。 | 入所時に受診したい医師の希望を聞いている。ホームには嘱託医がいて往診してくれ、常勤のナースとは昔からの知り合いなので何でもよく相談でき、利用者、家族、職員は安心できている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | ・常勤の看護師がおり、日常の状態を常に伝えて相談出来ている。必要あれば看護師からかかりつけ医の指示を受け適切に支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ・入退院時、病院と情報交換を行い、退院前のケアカンファレンスで退院後の生活について話し合っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | ・本人家族の希望等を聞き取り、入所時に十分に説明を行うと共に、医療、介護関係者と共に話し合いより良い支援に努めている。 | 終末期に当たっては嘱託医の指示によりターミナルケアプランを作成して支援している。最近二人を看取った事例があり、早めに家族に伝える工夫なども併せ、職員が尊厳を持って看取りの対応を行い、貴重な体験を積み重ねている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ・急変や事故発生時の対応について研修に参加し、職員が落ち着いて実践出来るよう学んでいる。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | ・定期的に避難訓練を実施し、日頃からどのように避難するかを話し合っている。 ・運営推進会議で地域との協力体制を築いている。 | 地域消防団の協力を得て年2回避難訓練を実施している。その時の課題として挙げられた避難道のジャリをコンクリートに改修した。また、推進会議で地区長に更なる地域との協力体制をお願いする等を行った。(目標達成計画 継続実施) | 昨今の異常気象に鑑み、あらゆる災害を想定した対策が求められている。運営推進会議で重要案件として引き続き協議していくことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ・利用者一人ひとりの生活歴や家族歴に配慮し日々を有意義に過ごせる様声掛けを行っている。 | 呼名の仕方や入浴、トイレ介助については個人の意向を大切に守っている。新人の若い職員が利用者とゲームをする中でも十分に利用者を尊重した言葉や態度が見られた。利用者は満足そうに楽しんでいる姿を見る事が出来た。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ・利用者が思いを表現し、自己決定できる環境作りや言葉掛けをしている。 ・表現が困難な方には、言葉、表情からニーズを読み取り、代弁する様努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ・それぞれの生活リズムを尊重している。 ・楽しみを持ちながら穏やかな生活が送れる様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ・こだわりや好みを尊重しながら、清潔を心掛けている。 ・季節や天候にあった衣類等のアドバイスをを行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | ・畑で作った食材を利用して、一緒に食事の下拵えをしている。 ・食事を楽しむ事が出来る様、共に食し雰囲気大切にしている。 | 当番職員が利用者の顔を見ながら作っている。朝食はパンとご飯が選択肢になっており、選べる楽しみがある。食事は静かに摂り、30分の安静時間において、職員と利用者同士の談笑でリビングが一段と賑やかになっていた。日常の食事風景である。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ・栄養バランスの良い献立を考え個人の状態に応じた形、量、調理方法を考え楽しく食事が出来る様に努めている。 ・水分摂取量を記録し把握している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ・一人ひとりの状態に応じ起床時、食後、就寝前に口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ・利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、さりげなくトイレへ誘導している。 ・居室にポータブルトイレを置くなどして失敗を減らしている。 | トイレでの排泄を基本としているが、座位を保てない人はポータブルトイレを使用している。自立の人が殆んどなので、さり気ない声掛けが行われていた。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ・日々水分補給に努めている。 ・歯ごたえのある食べ物も提供し、咀嚼をすすめている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ・一人ひとりの意思を尊重し、入浴拒否日は入浴を見合わせる。 ・タイミングを見て入浴誘導し清潔保持を行っている。また楽しく会話をしながら支援している。 | 毎日入浴を基本とし、昼間に実施している。全身シャワー浴の人には専用の機器を備えている。転倒防止の手摺りや滑り止めを施し、安心して入浴を楽しんでもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ・それぞれの生活リズムで自由に過ごしてもらおう。 ・食後、居室で休む人もあり、リビングで傾眠している人もあり、心地良い空間作りをしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ・日々の観察から症状の変化をDr.に細かく伝え服薬の指示をもらっている。 ・用法や用量についても、職員一人ひとりが把握するように努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ・日々の生活の中で洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除等一人ひとり出来る事をスタッフと一緒にやっている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ・利用者の希望(状態)にそって買い物、散歩、草取り等スタッフと共に行っている。 | 大型バスも運転できるようになり、必要に応じてバスを利用しながら外出できるようになった。利用者の行きつけの理髪店や馴染みの店に買物に行く等、希望に応じた外出支援を行っている。日常の散歩はマンツウマンで実施している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ・自己管理の可能と思われる方には、所持してもらっている。ただし、1万円までにしてもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ・自己管理の可能と思われる方には、所持してもらっている。ただし、1万円までにしてもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・共用空間では、明るく、暖かく、心地良く過ごせる環境を保つ事に心がけている。又、季節の壁飾りや花で四季を感じてもらっている。 | 事務所を通路としてA棟、B棟がつながり、程よい広さのリビングには身近に楽しめる小道具が置いてある。日常的に好きな事を選んで取り組んでいる様子が伺える。皆の作品が程よく掲げられ、良い雰囲気醸している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ・会話が出来たり、食事がしやすかったり、一人ひとりが居心地の良い場所で過ごせる様工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ・利用者が日頃使っていた日用品などを持って来てもらい使用している。 | 二つの小型整理タンスと空気清浄器、ベッドが備え付けられており、部屋造りは画一的にならないように皆の目を通して行っているようだ。「昼間はドアを閉めておいて下さい」の張り紙もあり、利用者の暮らしを居心地良く支えている所であると感じた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ・入所時のアセスメントにはじまり、出来る事、出来ない事をスタッフが把握し支援している。 | | |